

Vol.12 No.2 '89

1990年1月31日 発行 目次

胃切除後の骨障害と血清ビタミンDの関係について	3
佼成病院 外科 佐藤薫隆 他	
蛋白漏出性胃腸症の診断におけるIn-111トランスフェリン シンチグラフィーの検討	7
東邦大学 第1内科 瓜田純久 他	
ステロイドが著効し6年間にわたり寛解を維持しているCronkhite-Canada症候群の1例	11
広島大学 第1内科 田中信治 他	
多発性骨髄腫に伴うアミロイドーシスに乳び腹水を合併した1例	15
久留米大学 第2内科 井出達也 他	
中鎖脂肪酸トリグリセリド(MCT)の吸収・代謝経路の検討とその意義について	20
千葉大学 第2内科 大久保裕司 他	
便秘における便中短鎖脂肪酸排泄量の検討	24
弘前大学 第1内科 高橋敏之 他	
硫酸多糖体投与による実験的潰瘍性大腸炎における腸管粘膜リン脂質の検討	28
日本大学医学部 生化学教室 佐藤建司 他	
潰瘍性大腸炎の便中胆汁酸について	32
城東中央病院 日置正人 他	
Crohn病に対する在宅経腸栄養療法の効果と意義	36
横浜市大病院 第2外科 原田博文 他	
クローン病患者におけるED吸収能—小腸灌流法による試み—	37
兵庫医科大学 第4内科 平川博之 他	
クローン病に対する狭窄形成術術後の栄養評価	41
浜松医科大学 第2外科 森岡 暁 他	
Crohn病における蛋白漏出の推移—栄養・炎症のパラメーターの推移と比較検討—	42
東北大学 第3内科 伊藤 薫 他	
ラット小腸粘膜マイクロ環境PHに対する各種有機塩基の影響	47
日本大学 第3内科 藤沢 泰 他	
ジ、トリペプチド吸収の機構: 膜消化と膜輸送の相対的重要性	52
日本大学 第3内科 中村比呂志 他	
反転小腸を用いた経腸栄養糖質の基礎的検討—デキストリンについての検討—	56
千葉大学 第1外科 藤澤秀樹 他	
自然発症高血圧ラットの腸刷子縁膜カルシウム吸収動態について	60
東海大学 外科 柴田晴通 他	

遊離腸管における阻血再灌流後の絨毛のNa⁺-K⁺ATPase 活性	64
金沢大学 第2外科 八木雅夫 他	
Pancreatic polypeptideの放出からみた小腸の役割	67
滋賀医科大学 第2外科 藤村昌樹 他	
TPNラット小腸粘膜に対するEGFの栄養効果	72
滋賀医科大学 第2内科 辻川知之 他	
小腸粘膜に及ぼす外因性CCKとTrypsin inhibitor(FOY305)の影響	76
京都府立医科大学 第3内科 頼住 一 他	
胆汁酸のcholesterol吸収と小腸粘膜障害におよぼす影響	81
京都府立医科大学 第3内科 山根行雄 他	
抱合型胆汁酸による小腸刷子縁膜酵素のturnover調節機序	86
南多摩病院 消化器内科 吉岡政洋 他	
胆汁酸(UDCA)の小腸内負荷時の血中及び胆汁中胆汁酸組成の検討	91
滋賀医科大学 第2外科 平野正満 他	
食事組成による吸収機能の変化	96
大阪市立大学 生活科学部栄養生理 小島明子 他	
ラットの回腸盲腸切除後にみられる残存大腸の水吸収能の変化、 および糞便中の有機酸の動態について	100
山形大学 第1外科 星川 匡 他	
小腸広範切除ラットにおける経腸栄養剤の消化吸収能に与える影響(第2報)	104
東北大学 小児外科 安藤 正 他	
上、下腸間膜動脈閉塞症による大量腸管切除の1例	105
滋賀医科大学 第2外科 山本 明 他	
空腹マウスの小腸と肝臓におけるヘキソサミン合成の変化	109
日本大学 生化学 岡戸英之 他	
膵切除後の蛋白動態の検討	114
山口大学 第2外科 富永 博 他	
膵癌にみられる栄養障害と消化吸収異常	119
国立病院九州がんセンター 消化器部 若杉英之 他	
インスリンの経腸吸収による血糖管理の基礎的検討—第二報—	123
千葉大学 第1外科 斉藤 博 他	
糖尿病患者における胃排出能の検討— Trimebutine maleateの効果—	127
京都府立医科大学 第1内科 市川 寛 他	
アカルボース(α-glucosidase inhibitor)の消化管機能に及ぼす影響 —インスリン非依存性糖尿病患者について—	131

あとがき

第12 巻より年2回の発行となり、12巻1 号の発行後、ここに初めて2 号を発刊する運びとなった事は本誌が増々充実してきている事を示すものであり誠に慶びにたえない。第2号は第20 回消化吸収学会における一般講演を中心に30編の論文と3 編の講演抄録が掲載されている。年々内容も濃いものとなり発表者の研究内容を十分に表現するには現行の原稿枚数を増やす方向へ持って行く必要を感ずる。この2 号では次の学会の会告や演題募集のお知らせを掲載する都合上発行日を遅らせる事が出来ず、また全ての講演論文を掲載する方針でありますので、論文の締切期日を厳守する様お願い申し上げます。2 号を発刊するにあたりさらに会員の諸先生方に重ねてお願い致したい事は論文を投稿して頂きたい事であり、本誌のさらなる発展に御協力をお願いします。

(A. I)